

和白干潟を守る会

2006年度活動報告

2007.2.24 和白干潟を守る会事務局

活動方針 1. 和白干潟での自然観察会をお世話し、多くの市民、特に子どもたちに自然の大切さを伝えることを通して、自然保護の機運を高める。

1. 和白干潟自然観察会

2006年度中(1月～12月)にお世話した観察会は次の通り。保育園1回39名、小学校3回241名、中学校2回71名、高校3回229名、大学1回8名、合計588名、その他に大人のグループや海外からの訪問者など119名の見学をお世話した。またラムサール企画の観察会を2回、守る会主催の観察会を1回開催し、延べ110名の参加があった。それらを合計すると2006年度に延べ817名の観察会・見学をお世話したことになる。

2. 第10期和白干潟自然観察ガイド講習会

和白干潟での自然観察会ガイド養成・研修のため、12月に第10期和白干潟自然観察ガイド講習会を開催した。25名が参加した。

講師 安西英明氏 「干潟と鳥と私たち・・・鳥から学ぶ持続可能な未来」

3. 第18回和白干潟まつり

屋外の行事はお天気に左右されることが多く、当日は雨模様の天気におされて例年より参加者の出足は少し鈍かった。

しかし、バードウォッチング、干潟の植物・干潟の生き物の観察会やネイチャーゲームには熱心に参加され、ステージの子ども劇場、マジック、コーラス、それにバザーもそれぞれに楽しんでもらった。出店は17店、まつりの参加者は450名位であった。

4. 和白干潟クリーン作戦と自然観察(毎月第4土曜日)

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口までの範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質調査も実施した。6月4日(日)は九州各県など70箇所で行われる「ラブアースクリーンアップ」の清掃活動に参加した。各回8名から46名、延べ229名が参加。ゴミは各回26袋から140袋、計954袋を回収。それ以外に、延べ111人が随時清掃し、ゴミ627袋回収した。合計で年間の参加者は延べ340名、回収ゴミは1581袋に達した。粗大ゴミはマットレス、タイヤ、ソファー、木、板などがあつた。アオサも回収した。2006年は台風と大潮の満潮が重なったりして、アシ原が一面アオサに覆われることがあり苦労した。

4月22日(土) 干潟を守る日の清掃は雨天のため中止(有志で24日に掃除をした)

9月23日(土)のクリーン作戦は国際ビーチクリーンアップへの参加も兼ねた。

また、7月18日（火）に国土交通省九州地方整備局長から、多年にわたる和白干潟の美化清掃に寄与したとして「海の日功労者表彰」を受けた。

5. ラムサール条約登録をめざして

ラムサール応援企画として観察会を2回開催した。

(1) ラムサール応援企画「春の和白干潟を歩こう！」（4月）

野村郁子さん（福岡植物友の会）を講師に、干潟周辺の植物や野鳥を観察。参加者は52人を超えた。

(2) ラムサール応援企画「夏の夜の干潟観察会」（8月）

藤井暁彦さんを講師に夜の干潟の生き物を観察。参加者49名。

活動方針2. 和白干潟の大切さとその変わりつつある姿を、広く社会に訴えるため、和白干潟およびその周辺の生物の調査に力を入れる。

6. 調査

毎月1回の水質調査をした。

以下の調査に協力した。

1月 和白海域水鳥調査（日本野鳥の会福岡支部・IWRB 国際水禽湿地調査局）

1～2月、12月 環境省モニタリングサイト1000 冬季シギ・チドリ調査（環境省・WWFJ・JAWAN）（3回実施）

4月～5月 環境省モニタリングサイト1000 春季シギ・チドリ調査（環境省・WWFJ・JAWAN）（3回実施）

8月～9月 環境省モニタリングサイト1000 秋季シギ・チドリ調査（環境省・WWFJ・JAWAN）（3回実施）

9月 ゴミ内容調査（国際ビーチクリーンアップ）

活動方針3. 悪化しつつある和白干潟の環境を保全するため、博多湾人工島計画の凍結・縮小を含めた和白干潟保全策を市民や関係機関に訴える。

7. 和白干潟通信・パンフレット類

1・4・7・10月に「和白干潟通信」を計4回（No. 77～80、各4200～4500部）発行した。毎号B5判8ページで和白干潟に関する情報を発信している。配布先は、会員、マスコミ・行政関係、和白干潟周辺の家庭。各号につき数回の編集会議を開いて作成した（編集委員は5名）。発送作業はみんなで行なった。手配りでは、和白・奈多・美和台・高見台・唐の原・香住丘・御島崎・香椎の家庭に配布した。

パンフレットの改訂版を発行した。

「環境教育シリーズI・II」、「和白干潟を守る会」 3種 各10,000部（11月）

8. 和白干潟を守る会ホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/~miyakodori/>

会の行事予定や活動報告、和白干潟の生物などに関する情報を発信している。四季にわけて、生き物、植物、野鳥の写真や、観察会の様子などの画像も充実させるように努めている。協力者を募っている。

9. その他の広報活動

(1) 情報の発信

新聞や雑誌、他団体の会報等に会の活動予定や鳥情報を発信した。雑誌等に和白干潟を紹介する文章を寄稿した。東区役所と東市民センターとコミセンわじろなどに「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターを毎月掲示してもらい、和白干潟通信も常時置いてもらっている。東区内の公民館、和白丘の亀の井ホテル、喫茶「ほっと」、藍の家、ハローデイなどにも和白干潟のパンフレットや通信を置いてもらっている。

(2) 講演等

NPO 法人 GREEN'S 主催「和白 Seeweed fes.2006」シンポジウムで守る会の活動を紹介した。(7月)

「全国高校環境サミット」で和白干潟の自然紹介・守る会の活動について講演した。(8月)
球磨川河口干潟環境教育教材化企画委員会主催 「球磨川河口干潟『もっと伝えたい干潟のことを子どもらに』」で和白干潟での環境教育の取り組みを報告(10月)

(3) 取材協力

新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌などからの取材に協力した。

10. 対外協力・参加活動、働きかけ

(1) 和白海岸定例探鳥会(野鳥の会福岡支部)に協力・参加。毎月第2日曜日、計12回。

(2) 博多湾保全のつどい(構成団体: NPO 法人 GREEN'S、九州環境管理協会、ウエットランドフォーラム、博多湾生態系活性化プロジェクト、エコ FIT、和白干潟を守る会、福岡市港湾局)に4月より参加した。毎月1回の定例会、アサリ看板設置(10月)、アオサ回収イベント(11月)

(3) 福岡市長に以下の要望書を提出した。(7月)

「和白干潟の重機に寄る耕耘の中止を求める要望書」

「人工島野鳥公園基本構想の人工干潟造成計画の撤回を求める要望書」

要望書の中で守る会が要求した資料を7月末に福岡市長より受け取った。

(4) 他団体のイベントに参加した。

臨海リサイクルプラザ「水辺の自然パネル展」に和白干潟の鳥と植物や、守る会の活動の写真パネルを展示した。期間中の「元気フェスタ」では子どもたちに解説をした。(8月)

「第2回博多湾再生市民フォーラム」に守る会の活動の資料・写真を提供した。(12月)

(5) 「いらんばい!福岡オリンピックの会」の要請による「オリンピック招致を中止することを求める請願」に50名分の署名を送った。(3月)

(6) 意見書送付・アンケート回答

他団体や行政などの依頼により、環境問題や環境教育についての意見書を作成したりアンケートに答えたりした。

(7) 塩浜護岸工事については、福岡市長あてに2005年に2回要望書を提出したが、6月8日
港湾局工務課から6月10日から12月10日頃までを予定に着工するとの説明があった。

12月下旬に今年度分の護岸工事は終了した。

(8) 和白干潟のアオサの件で港湾局に連絡し、アオサを回収してもらった。

* * *

11. 定例会議・総会(毎月第4土曜日)

毎月原則として第4土曜日、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。そのうち2月は「総会」として開催した。出席者は各回9～15名。総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する重要な事項は定例会議で審議して決定した。

12. 販売・贈呈

観察会に来た学校・公民館等に和白干潟の写真集・ラムサールパンフを贈呈した。また、写真えはがき、きりええはがき、絵本『ひがた だいすき!』、他団体の出版物なども委託販売したり、贈呈したりした。

13. 助成

(1) 福岡市環境市民ファンドの「エコ発する事業」補助金をうけた。

2006年4月から2007年3月まで(1年間)、和白干潟の保全と環境教育活動のために73万7千円の助成を受けた。

14. 寄付・寄贈

(1) 会員や一般市民の方々から干潟まつり、観察会、会費納入、望年会オークションの折などに、合計36万5千余円のカンパが寄せられた。